市町村合併

いま大規模な市町村合併が進行中である。政府は、全国約三千二百の市町村を一千程度に再編したいとしている。愛媛県は、現在の七十カ市町村が十七ないし十八程度になると見込まれている。全国的には一千自治体の目標達成は困難とみられているが、二千を切ることは確実であろう。

合併によって出来る新たな自治体の名前について、歴史や伝統を反映しない無機質な名称で馴染めないという反対論が多く提起されている。名前もさることながら、もっと重要なのは、人びとの暮らしがどうなるかである。石鎚村は、合併前の人口は約千二百人であったが、昭和三十（一九五五）年小松町に合併した途端、急速に減少し、いまや実質的な住民は曽我部正喜さんご夫婦ただ二人という状況である。これは極端な例かもしれないが、中山間部や離島の人口は急速に減少し、放棄される地区も多くなるであろう。

もうひとつ心配なことは、市町村合併によって行政文書が大量に廃棄されることだ。しかし、当面必要でないと思われた文書が後で役に立ったという事例は数多くあるし、何よりこれらは地域の歴史を呼び起こす「記憶装置」なのである。一度廃棄してしまうと、取り返しがつかない。

今年二月にゼミ旅行で、熊本県天草に行った。ここでも二市九町の合併話が進行中であるが、特筆すべきは本渡市には「天草アーカイブズ」があることだ。アーカイブズは、ふつう文書館と言われているが、行政文書や古文書を含めいっさいの記録物を保存・管理・公開する施設である。したがって、合併に伴って新自治体に移管されないすべての文書を、一旦アーカイブズに保存し、その後ゆっくりと時間をかけて保存すべきものとそうでないものを分けていくことにしていると聞いた。

愛媛県には、県立の文書館は存在しないし、市町村単位でも城川町文書館しかない。文書館作りを進めるとともに、合併に伴う行政文書の散逸を食い止める措置を早急に講じなければならないと考える。